



## 「第 50 回日本緑化工学会大会」案内（第 3 回）

—50 回記念大会—

第 50 回日本緑化工学会大会運営委員長 内田泰三

第 50 回日本緑化工学会大会を下記のとおり開催します。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

なお、本大会の「現地見学会」、「公開シンポジウム」、「大会参加」は、環境・緑化 CPD 協議会および森林・自然環境技術者教育会（JAFEE）の CPD（技術者継続教育）の履修実績として申請することができます。森林・自然環境技術者教育会（森林分野 CPD）は建設系 CPD 協議会と連携しています。

### 1. 大会概要

#### (1) 日程

#### 2019 年 9 月 13 日（金）

- 10:15～14:30 現地見学会「都市の自然再生」
- 10:15～11:15 アクロス福岡（現地集合）
  - 11:50～12:50 国営海の中道海浜公園
  - 13:10～14:15 アイランドシティ中央公園
  - 14:30 九州産業大学解散
- 14:00～17:30 公開シンポジウム受付（九州産業大学）
- 15:00～17:30 公開シンポジウム「緑化の減災効果と今後の植生管理」
- 基調講演「九州の荒廃斜面における土砂生産・流出と植生の影響」  
鹿児島大学 寺本行芳 氏
  - 15:00～17: 話題提供 1「火山地域の緑化と防災」  
森林総合研究所 小川泰浩 氏
  - 15:00～17 :話題提供 2「緑化資材と樹木の成長」  
愛媛大学名誉教授 江崎次夫 氏
  - 15:00～17 :話題提供 3「山地災害と森林管理」  
林野庁九州森林管理局計画保全部治山課 松岡良二 氏
  - 15:00～17: 話題提供 4「斜面緑化と生物多様性」  
大阪府立大学 今西純一 氏

#### 2019 年 9 月 14 日（土）

- 09:00～11:00 大会受付
- 10:00～11:00 資材・工法展示，ポスター展示
- 10:00～11:00 理事会

- 11:00～12:30 口頭発表
- 12:30～13:30 編集委員会
- 13:30～14:30 ポスター発表コアタイム（論文，技術報告，研究交流発表会）
- 14:30～16:30 研究集会
- 16:30～17:30 総会，学会賞授与式
- 18:00～20:00 懇親会（中央会館1階 学生食堂「アルテリア」）

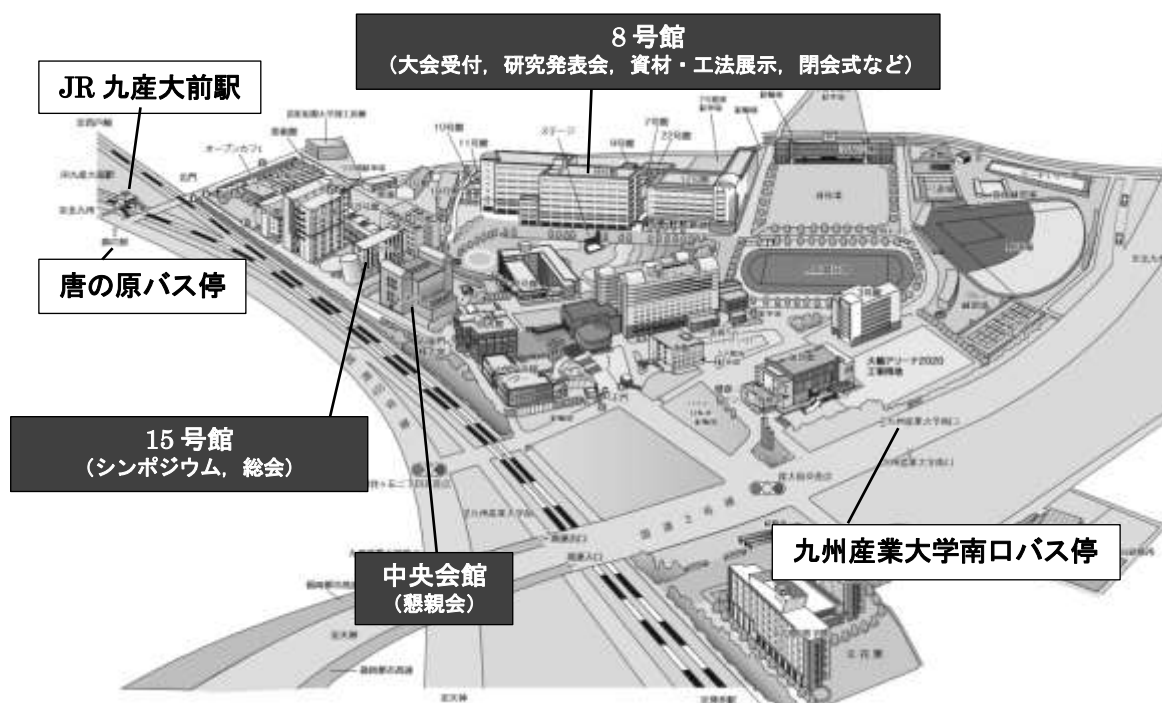
2019年9月15日（日）

- 09:30～17:30 資材・工法展示，ポスター展示
- 09:30～11:00 口頭発表
- 11:00～12:00 ポスター発表コアタイム（論文，技術報告，研究交流発表会）
- 12:00～15:00 研究集会
- 15:00～15:30 閉会式（挨拶・優秀ポスター賞表彰式）
- 15:30～17:00 評議員会

(2) 会場（現地見学会を除く）

九州産業大学 (<https://www.kyusan-u.ac.jp/>)

(福岡市東区松香台 2-3-1, JR 九産大前駅下車, 徒歩 1分)



## 2. 参加費・参加申込方法

当日受付と前納受付があります。前納の場合、大会参加・懇親会には割引があります。会員の皆様にはできる限り前納受付をしていただきますようお願いいたします（前納受付は2019年8月9日で終了しました）。

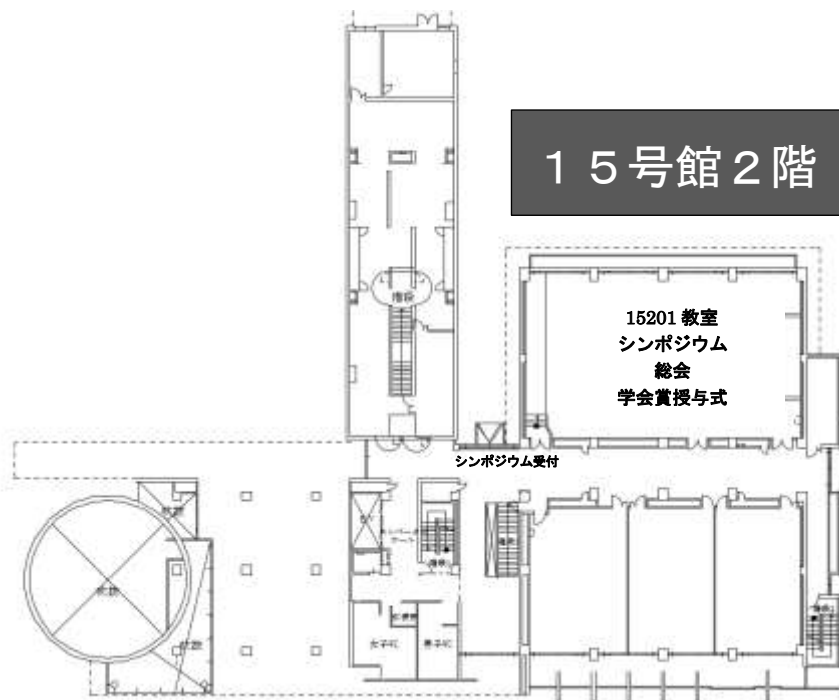
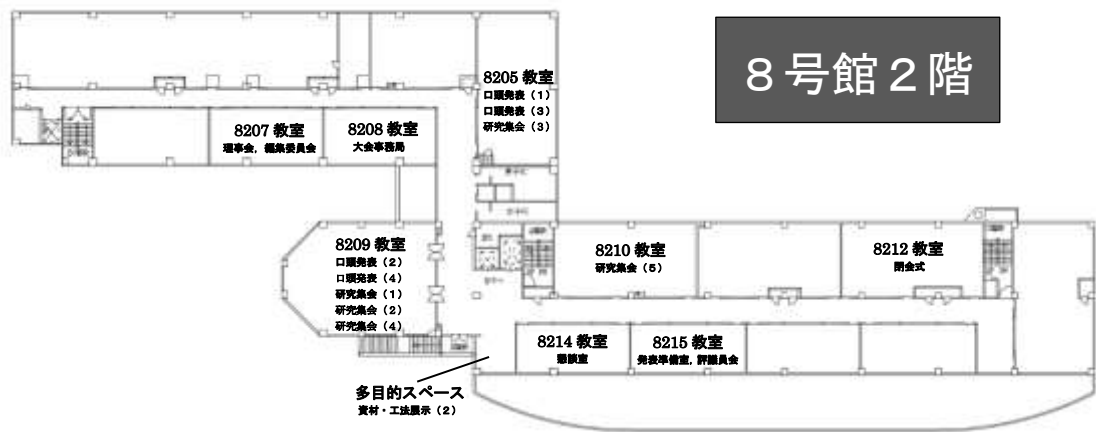
		会員		非会員		
		正会員	学生会員	一般	大学院生 学部生	高校生
大会参加	当日	5,000円	1,000円	7,000円 (資料含む)	1,500円 (資料なし)	無料 (資料なし)
	前納	4,000円	500円	—	—	—
懇親会	当日	5,000円	1,500円	5,000円	2,000円	—
	前納	4,000円	1,000円	—	—	—
現地見学会 (要事前申込)	区分なし	2,500円	2,000円	2,500円	2,000円	2,000円

※ 賛助会員の方は正会員と同等の条件でお申し込みいただけます。

※ 賛助会員所属の方、非会員（大学院生・学部生・高校生）の方も、資料（論文・技術報告の印刷された大会特集号）を当日受付にて2,000円でお買い求めいただけます。

## 3. 大会プログラム

9月	場所	9時 0 30 0	10時 0 15 30 0	11時 0 30 0	12時 0 30 0	13時 0 30 0	14時 0 30 0	15時 0 30 0	16時 0 30 0	17時 0 30 0	18時 0 30 0	19時 0 30 0		
13日 (金)	福岡市博多区および東区	現地集合（アクロス福岡）												
	15号館2階							シンポジウム受付						
	15201教室							シンポジウム						
14日 (土)	8号館1階	大会受付												
	8208教室	大会事務局												
	8207教室	理事会			編集委員会									
	8205教室					□頭発表（1）								
	8209教室					□頭発表（2）		研究集会（1）						
	8号館1階 エントランスホール	論文・技術報告部門 ポスター展示				コアタイム								
	8号館1階 メモリアルホール	研究交流発表会 ポスター展示				コアタイム								
	8号館1階 エントランスホール	資材・工法展示（1）												
	8号館2階 多目的スペース	資材・工法展示（2）												
	8214教室	懇談室												
	8215教室	発表準備室												
	15201教室										総会および 学会賞授与式			
	15日 (日)	中央会館1階 学生食堂「アルテリア」	懇親会											
8号館1階		大会受付												
8208教室		大会事務局												
8205教室		□頭発表（3）				研究集会（3）								
8209教室		□頭発表（4）				研究集会（2）		研究集会（4）						
8210教室								研究集会（5）						
8号館1階 エントランスホール		論文・技術報告部門 ポスター展示				コアタイム								
8号館1階 メモリアルホール		研究交流発表会 ポスター展示				コアタイム								
8号館1階 エントランスホール		資材・工法展示（1）												
8号館2階 多目的スペース		資材・工法展示（2）												
8214教室		懇談室												
8215教室		発表準備室												
8212教室											評議員会			
	閉会式													



4. 研究発表会（論文・技術報告部門）

■論文・技術報告部門 口頭発表（1）

■9月14日（土）11:00～12:30（発表12分，質疑応答3分）

◇会場：8号館2階8205教室

No.	タイトル	著者	開始時刻
O-01-A	山地域と都市域におけるイヌシデ ( <i>Carpinus tschonoskii</i> Maxim)のマンガンを含む元素組成と枝葉の分解特性の比較	人見拓哉・稲見安希子・高橋輝昌	11:05
O-02-A	琵琶湖疏水水系における沈水植物の流入および分布状況	小田龍聖 深町加津枝 柴田昌三	11:20
O-03-A	エチオピア北部、ティグライ州に植栽したオリーブとハウチワノキの成長に対する炭の添加効果.	香山雅純・竹中浩一・ブルーアベベ・エミル ブルハーヌ	11:35
			(休憩)
O-01-T	セダム属植物と焼成焼却灰を組み合わせた雑草防除法の検討	稲垣栄洋・藤岡伸吾・小笠原勝	12:00
O-02-T	緑化用植物としての秋型そばの春播き栽培による雑草抑制	稲垣栄洋・徳田有美・石関真衣・西川浩二	12:15

■論文・技術報告部門 口頭発表（2）

■9月14日（土）11:00～12:30（発表12分，質疑応答3分）

◇会場：8号館2階8209教室

No.	タイトル	著者	開始時刻
O-03-T	北海道におけるトールフェスク ( <i>Festuca arundinacea</i> Schred.) の周辺への拡散の可能性に関する調査	佐藤厚子・畠山 乃	11:05
O-04-T	地上 3D レーザースキャナを用いた緑道の空間構造把握	高木康平・藤田祥代・日置佳之	11:20
			(休憩)
O-05-T	隠岐郡西ノ島における希少種トウテイラ	戎谷 遵・中村 凌・岡 浩	11:45

ンが生育する切土法面の特徴 平

O-06-T 横浜市柏尾川における河床掘削工事後の 大澤啓志・釜淵嵩大  
絶滅危惧植物ミズキンバイの生育分布 12:00

■論文・技術報告 口頭発表（3）

■9月15日（日）09:30～11:00（発表12分，質疑応答3分）

◇会場：8号館2階8205教室

No.	タイトル	著者	開始時刻
O-04-A	アカマツ・コナラ主体の植栽緑化11年後の盛土法面における林分構造	小宅由似・今西純一・石原一哉・柴田昌三	09:35
O-05-A	行動パターンと特性不安の違いによる壁面緑化の心理的効果	鈴木弘孝・大内善広・加藤真司・岩崎 寛	09:50
O-06-A	都市公園「帯広の森」で植栽後35年が経過した落葉広葉樹林・常緑針葉樹林の林床環境が木本実生の侵入定着過程に与える影響	宮崎直美・平田昌弘・菊池俊一	10:05
(休憩)			
O-07-T	スギコンテナ苗の生育に与えるファインバブルの効果	奥田 淳・山瀬敬太郎	10:30
O-08-T	水質および管理方法がカサスゲ ( <i>Carex dispalata</i> Boott) の群落形成に及ぼす影響	辻 盛生・鈴木正貴・佐々木理史	10:45

■論文・技術報告 口頭発表（4）

■9月15日（日）09:30～11:00（発表12分，質疑応答3分）

◇会場：8号館2階8209教室

No.	タイトル	著者	開始時刻
O-09-T	京都市における街路樹ケヤキ及びイチョウの地上部バイオマスの計測	正田 佑・今西純一・柴田昌三	09:35
O-10-T	i-Tree Eco の医療費・冷暖房費削減モデルの日本向けカスタマイズ	平林 聡・譚 瀟洋・柴田昌三	09:50
(休憩)			

O-11-T	固化土壌基盤に植栽したアゼスゲ ( <i>Carex thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i> ), ハンゲシヨウ ( <i>Saururus chinensis</i> ) の生育状況に関する研究	山口桃華・大澤啓志・瀧 寛 則・屋祢下亮・渡邊敬太	10:15
O-12-T	木質系建築廃材と生木の堆肥化特性の比較	高橋輝昌・大谷樹生・緒方イサム・土屋秀人・池見勝広・佐々木大賢・人見拓哉	10:30

■論文・技術報告部門 ポスターセッション／コアタイム 9月14日(土) 13:30~14:30  
 ◇会場：8号館1階 エントランスホール

No.	タイトル	著者
P-01-A	土質の違いが植物根系の補強効果に及ぼす影響	山口滉平・中村 大・川口貴之・川尻峻三・山下 聡・中陳実咲希
P-03-A	屋上緑化芝地における大気汚染に関わる元素量の経年変化	黒沼尊紀・久保堅司・信濃卓郎・石原竜彰・孔 大徳・東島一成・安藤匡哉・渡辺 均
P-05-A	遊水地造成に伴う湿地植生の回復—千歳川流域舞鶴遊水地の事例—	畔柳晶仁・森本淳子・志田祐一郎・新庄久尚・矢部和夫・中村太士
P-07-A	北海道におけるハマエンドウの遺伝変異	伊東時子・我妻尚広・岡本吉弘・森 志郎
P-09-A	木部直径変化・木部含水率および樹液流速測定による樹幹と枝における木部の凍結—融解現象の検出	上田正文・丸田恵美子
P-11-A	樹液流速の計測に基づいて樹冠や根系の縮減を抑えた樹木移植法の検討—カラタネオガタマを対象にして—	竹内真一・篠崎圭太郎・本間秀一・松島大樹・日高英二・飯田真一
P-13-A	ガマズミ ( <i>Viburnum dilatatum</i> Thunb.) 種子の形態生理的休眠と発芽期間の短縮	武井理臣・柴田尚志・藤野裕太・橘 隆一・福永健司
P-15-A	スギ造林地におけるニホンツキノワグマによる剥皮害の発生要因の検討	大島潤一・山下聖加・飯塚和也
P-17-A	オンラインアンケートを用いた医療従事者の植物に対する意識調査	佐藤えり・岩崎 寛
P-01-T	北海道羅臼地域治山緑化における自生種植物の使用事例その2	福田尚人・久保証治
P-03-T	ミズクラゲチップの木本植物に対する施用効果	全 權雨・金 錫宇・寺本行芳・松本淳一・土居幹治・河野修一・江崎次夫
P-05-T	花崗岩急斜面における表層土の発達と表層崩壊の発生	寺本行芳・下川悦郎・江崎次夫・河野修一・全 權雨・金錫宇・土居幹治・松本淳一
P-07-T	塩生植物3種の発芽に及ぼす光・温度・塩分の影響	長田美保・岡 浩平
P-09-T	カワラノギク個体群におけるツツミノガ属の一種の分布	倉本 宣・谷尾 崇・上小牧駿
P-11-T	都市近郊湿地における近隣勤務者の健康増進を目的とした利用の可能性	古賀和子・岩崎 寛・西廣 淳

P-13-T	宮城県気仙沼市における海岸林と海岸植生の改変状況と環境変化	中村華子
P-15-T	海浜植物ハマボウフウ ( <i>Glehia littoralis</i> F. Schmidt) の表面殺菌処理による発芽率向上とカルス誘導に関する研究	新町文絵・中村颯人・水野真二・小谷幸司・渡辺慶一・小島仁志
P-17-T	釧路湿原細岡地区の永久コドラートにおけるハンノキの変化	田崎冬記・折戸由里子・川嶋啓太・稲垣乃吾・神田房行
P-19-T	海岸防潮堤のり面の土壌環境と植栽木の生育	浅野勇希・田端光樹・吉崎真司

■論文・技術報告部門 ポスターセッション／コアタイム 9月15日(日) 11:00~12:00

◇会場：8号館1階 エントランスホール

No.	タイトル	著者
P-02-A	屋上緑化に用いられるセダム類の03応答	若林 咲・衣笠利彦
P-04-A	中国山地に侵入したオオハンゴンソウの分布特性と刈り払い管理が植物の群落構造に与える影響―鳥取県日南町の事例―	永松 大・中井結依子・番原昌子
P-06-A	仙台平野の海岸林における津波被災時の残存樹木の8年後の生残状況	七海絵里香・大澤啓志・石川幹子
P-08-A	ヤドリギと宿主の水分通導組織構造と水分生理特性	谷本直緒子・上田正文
P-10-A	ブナハバチの食害を模した展葉完了まもなくの摘葉がブナ苗木の当年枝木部水分通道能力および細根量に与える影響	小沢真代・上田正文・古井真陽・植村恭子
P-12-A	食葉性昆虫の食害を模した摘葉が圃場に生育する中型ブナ( <i>Fagus crenata</i> Blume)の当年枝木部の水分通道組織構造に与える影響	植村恭子・上田正文・谷脇徹・斉藤央嗣・相原敬次
P-14-A	ブナ林下層に生育するチシマザサ( <i>Sasa kurilensis</i> Makino et Shibata)の群落構造に影響を与える環境要因	呉 崇洋・田中凌太・藤好恭平・服部一華・赤路康朗・廣部宗・坂本圭児
P-16-A	地上レーザーを用いた階層構造と植被率の自動解析手法	加藤 顕・田村太壱・市橋新・小林達明・高橋輝昌
P-02-T	オオイタビ ( <i>Ficus pumila</i> L.) による城石垣内部の破損	坂井清春・高瀬哲郎・岡崎壮一・下條信行・全 権雨・金 錫宇・寺本行芳・河野修一・江崎次夫
P-04-T	笠松山山火事跡地の森林再生	河野修一・江崎次夫・寺本行芳・全 権雨・金 錫宇・松本淳一・土居幹治
P-06-T	葛西臨海公園の護岸におけるウラギク ( <i>Aster tripolium</i> L.) の分布規定要因の検討	三島らすな・Tim Gardiner・倉本 宣
P-08-T	都市人工林に自然侵入した若齢木の地際直径、樹高による樹齡推定式の作成および適用性の検討	宮崎直美・平田昌弘・菊池俊一
P-10-T	島根県浜田市におけるタブノキ林の表土を利用した法面緑化事例	大嶋辰也・久保満佐子・井上雅仁・田村 徹・森定 伸・西尾 隆



P-12-T	野外調査と内業を効率化するスマートフォン利用データベースの開発	中村彰宏・藤野和臣・木寺由樹・中山祐一郎・守村敦郎
P-14-T	マツ枯れ被害林における広葉樹の除伐後 2 年間の成長	島田博匡
P-16-T	非接触機器による木製治山ダムの形状測定手法の検討	小川泰浩・玉井幸治・村上亘・岡田康彦
P-18-T	広葉樹により構成される海岸林の林床における実生の空間分布及び成木との関係	木村祐貴・中島有美子・吉崎真司
P-20-T	短期的塩水浸漬がクロマツ ( <i>Pinus thunbergii</i> Parl.) 種子の吸水と発芽へ及ぼす影響	伊東日向・吉崎真司

## 5. 研究交流発表会

■研究交流発表会 ポスターセッション/コアタイム 9月14日(土) 13:30~14:30

◇会場: 8号館1階 メモリアルホール

No.	タイトル	著者
研交 01	都市林におけるトウネズミモチの分布拡大が在来植生に与える影響	原 千夏・野口結子・柏木圭太・岡部桃子・石井弘明
研交 03	スギの 1 変数材積数学モデルを利用した飢肥城日本丸跡地杉林におけるスギ巨木群のバイオマス評価	森 雄樹・塘林優香・河野智謙
研交 05	国有林の林分密度試験地でのスギの生育データベースと高等植物の成長モデルを応用したスギの成長のシミュレーション	中尾賢輔・塘林優香・河野智謙
研交 07	国有林の林分密度試験地でのスギの生育データベースと新規数学モデルを利用した胸高直径値からの材積値および樹高値の復元の試み	酒本卓典・塘林優香・河野央子・郷原寛美・河野智謙
研交 09	クスノキの乾燥耐性に寄与する木部細胞	山田佳乃・石井弘明・黒田慶子
研交 11	メドハギの遺伝的地域性の検討状況について	今西純一・今西亜友美・陶山佳久・井鷲裕司
研交 13	非面的吹付緑化工(エコスライプ工法)の自然侵入促進効果(予報)	小野幸菜・吉田 寛
研交 15	火山噴出物被覆斜面におけるクラゲチップを用いた植栽試験	寺本行芳・下川悦郎・江崎次夫・河野修一・土居幹治・松本淳一・全 権雨・金 錫宇
研交 17	リモートセンシング技術による緑地管理業務支援について	小澤徹三・高橋英樹・極楽寺隼也・松田靖博・林 詳悟・出雲真仁・宇野久水
研交 19	地域環境に着目した高齢者の社会関係資本に関するモデル構築と確率推論	大塚芳嵩・花里真道・本村陽一・近藤克則
研交 21	園内視察による利用者属性と利用空間に着目した総合公園利用行動の検討	長井健太・下田政博・福本寛之
研交 23	レーザー距離計を利用した地上からの計測による植林密度の異なるスギにおける光合成組織層の定量	塘林優香・酒本卓典・河野央子・郷原寛美・河野智謙
研交 25	「くらげチップ」を用いた史跡地の緑化	江崎次夫・河野修一・下條信行・幡上敬一・織田誠司・寺本行芳・全 権雨・金 錫宇・松本淳一・土居幹治
研交 27	2018 年台風 21 号が都市内樹木に与えた被害における樹種とサイズの影響	中村彰宏
研交 29	シダ類の生育地としての都市域及び都市郊外域のハードスケープ —中部地方のデータセットからの考察—	村上健太郎

研交 31	土の締固め度と土壌硬度ならびに草本根系伸長に関する基礎実験	池谷真希・杉山太宏
研交 33	公園樹木管理における SLAM レーザ機器による 3D 計測データの活用の可能性	横田潤一郎・佐々木龍・望月沙紀・中西甚五郎・高木丈子
研交 35	羅臼岳と利尻山及び余市岳におけるエゾコザクラの遺伝的多様性	原 悠里・我妻尚広・岡本吉弘・森 志郎
研交 37	愛媛県特定希少野生動植物トキワバイカツツジの生育域外保全を目指した種子及び挿し木による増殖方法	藤林弘恭・久松定智・大橋広明・徳岡良則・橋越清一
研交 39	西南日本太平洋側の海岸林造成地におけるマツ枯れ後の広葉樹林の成林状況と気象条件について	中島有美子・吉崎真司
研交 41	都市部における壁面緑化の実態調査	岡田準人
研交 43	岩手県宮古市の津波浸水地域において山取り苗等を用いた植樹方法とモニタリング結果について	小谷洋史・渡辺晋二・西野文貴

■研究交流発表会 ポスターセッション/コアタイム 9月15日(日) 11:00~12:00

◇会場: 8号館1階 メモリアルホール

No.	タイトル	著者
研交 02	表層崩壊地の樹木分布と根の崩壊防止力	山瀬敬太郎・藤堂千景
研交 04	粗放型屋上緑化への蜜源植物の導入に向けて一植物体のバイオマスと生育型からみた混植の効果一	松岡達也・土屋一彬・大黒俊哉
研交 06	人工知能と園芸活動を応用した地域の高齢者への健康増進活動の実践例	大塚芳嵩・潤間励子・岩崎寛・本村陽一
研交 08	10 種類の草本植物の根系を含む土供試体のせん断特性に関する経年評価	宗岡寿美・新田祥吾・山崎由理・木村賢人・辻 修
研交 10	pH の異なる生育基盤におけるベニシダ・オニヤブソテツの孢子発芽	高野公志・吉永黄哉・西野文貴・福永健司・橘 隆一
研交 12	異なる培地と温度条件下におけるオシダ科 3 種の孢子の発芽と前葉体の成長	西野文貴・橘 隆一・福永健司・清澤賢司・大畠功暉
研交 14	異なる照度条件下におけるオシダ科 2 種とゼンマイの孢子の発芽と前葉体の成長	安原菜々子・西野文貴・橘 隆一・福永健司
研交 16	年 2 回刈り (除草間隔 40 日) によるセイバンモロコシ抑制の検討	山根 明・友口勇生・田中菜津美・内田泰三
研交 18	都市人工林に自然侵入した若齢木の地際直径、樹高による樹齢推定式の作成および適用性の検討	宮崎直美・平田昌弘・菊池俊一
研交 20	法面吹付種子への休眠打破処理の有効性検討	太刀川翼・石崎智美
研交 22	静電容量計測による海岸クロマツ林の根量非破壊推定	萩野裕章・田中 淳・田中賢治・井野友彰・飯田 毅
研交 24	『まちもり®』ポットを用いた都市住宅地および工場での生態学的緑化の取り組み	濱田知宏・西川博章・武藤一巳・平井宗男
研交 26	「くらげチップ」とヒノキを用いた山腹崩壊地の緑化	河野修一・江崎次夫・寺本行芳・原 浩之・村上博光・稲本亮平・木原辰之・全 権雨・金 錫宇・松本淳一・土居幹治
研交 28	雨天時における緑地空間の心理的効果-視点場の違いが印象評価に与える影響	阿部健太・鄭 蒙蒙・岩崎 寛
研交 30	福島県郡山市におけるカッコウの生息分布と生息空間の特性分析	橋詰弦奏・後藤 忍

研交 32	宮城県奥松島地域の宮戸島の海岸側低地における津波被災に残存するタブノキ	広永勇三
研交 34	阿蘇の草原再生を目指した試み“阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト”経過報告	吉原敬嗣・入山義久・内田泰三・小野幸菜・田中 淳・津田その子・橘 隆一・今西純一・中村華子・中島敦司
研交 36	日本の各地域における街路樹	古野正章・早坂大亮・内田泰三
研交 38	大阪市佃島における繁殖期の鳥類分布の傾向	高林 裕・福井 亘・上田瑠香・水口仁人
研交 40	京都市中心部における京町家庭園の環境特性と鳥類生息の関係	上野 涼・福井 亘・貫名涼・柴田昌三
研交 42	街区公園における植栽が鳥類相に与える影響	貴瀬 翠・福井 亘・貫名涼・柴田昌三

## 6. シンポジウム

50回記念大会となる2019年大会の前日に記念シンポジウムを企画しました。基調講演では、九州の荒廃斜面を対象として土砂生産・流出と植生の減災効果について取り上げ、報告して頂く予定です。植生の表層崩壊防止機能については、力学的・統計的な評価を中心にし、過去から報告や学会誌上での寄稿などされてきました。基調講演では、表層崩壊防止機能について、これまでとは違う切り口である、植生遷移と過去の表層崩壊防止機能の知見を基に報告して頂く予定です。

さらに、後半では、現地での具体的な調査結果を交え、火山地域の緑化とその防災効果、荒廃地における緑化資材の樹木成長効果、近年の山地災害の特徴と森林管理、斜面緑化と生物多様性などについて話題提供・報告して頂きます。これらの話題提供・報告を踏まえ、減災的・生態系保全的な視点からみた今後の植生管理の在り方について考えたいと思います。シンポジウムでは、九州地域の具体例をできるだけ取り上げ、「緑化の減災効果と今後の植生管理」について議論する機会としたいと考えています。ふるってご参加下さい。

## 7. 現地見学会

### (1) 概要

「都市の自然再生」をテーマに「アクロス福岡」、「海の中道海浜公園」、「アイランドシティ中央公園」をめぐる予定です。アクロス福岡は、有機的建築の先駆けとして1995年に開館しました。階段状の屋上緑化「ステップガーデン」があり、都市の中の豊かな緑地空間を作り出しています。南側にある天神中央公園とアクロス福岡のステップガーデンとの緑の連続空間は、都市内に大きな緑地空間を作り出し、都市緑化、自然再生の先駆的な事例の一つです。

海の中道海浜公園は、海岸林緑化の公園で、マツを主に防風林の役割と博多の町への緑の回廊を巡らす役割を担っている公園です。

アイランドシティ中央公園は2005年に開園した人工島内にある都市公園です。中央の池周辺には緑豊かな空間を創出しています。体験学習施設としての「ぐりんぐりん」は屋上緑化が施され、周辺の緑と一体化した建築物になっています。なお、現在施工中の海浜公園である「はばたき公園」についても説明して頂くことになっています。

現在、そして未来に向けた福岡の「みどり」を現場で見えて感じて下さい。

(2) 実施日時：2019年9月13日（金）10:15～14:30

10:15 アクロス福岡 南エントランス集合（昼食は各自ご用意下さい）

10:15～11:15 アクロス福岡 見学と説明 内山緑地建設（株） 能勢彩美 氏  
昼食は海の中道海浜公園内で向かうバス車内等で各自お願いします

11:50～12:50 海の中道海浜公園 見学と説明 東京都市大学教授 吉崎真司 氏

13:20～14:00 アイランドシティ中央公園 見学と説明 福岡市港湾局 小山剛広 氏

14:30 九州産業大学 解散

(3) 参加費用について

参加費：正会員・非会員（一般）2,500円，学生会員・非会員（大学院生・学部生・高校生）

参加費：2,000円です。

(4) 申し込み方法

【申込締切り】2019年9月9日（月）までですが，先着40名です。

【申込先】企画・事業部会 福井亘宛 ([wfukui@kpu.ac.jp](mailto:wfukui@kpu.ac.jp)) にメールでお申し込み下さい。

【メール内容】1) 件名 第50回緑化工学会大会・見学会申し込み

2) お名前 [ふりがな] / 3) ご所属 / 4) 連絡先携帯番号

(5) その他

現地見学会の集合時間に合わせた当日の交通機関の一例は以下のとおりです。最新の交通機関状況は各自，必ずご確認ください。

【関東方面】

JAL305 便（羽田空港 7:10～福岡空港 9:00）

ANA241 便（羽田空港 7:25～福岡空港 9:20）

【東海，関西方面】

のぞみ 95 号（名古屋駅 6:20～京都駅 6:56～新大阪駅 7:12～博多駅 9:40）

JAL2051 便（伊丹空港 7:05～福岡空港 8:28）

ANA 421 便（伊丹空港 8:00～福岡空港 9:15）

APJ 151 便（関西空港 7:05～福岡空港 8:20）

## 8. 研究集会

(1) 研究集会（1）

テーマ：2019年提言とは何か？提言をどのように実現するか？

日時：2019年9月14日（土）14:30～16:30

場所：8号館2階8209教室

話題提供：今西純一（大阪府立大学），吉田 寛（東興ジオテック（株）），江川知花（農研機

話題提供：構 農業環境変動研究センター）

司会：橘 隆一（東京農業大学）

趣旨：

「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言2019」（2019年提言）が新たに公表された（学会誌44巻4号622～628頁）。本研究集会では新提言が必要になった背

景や、新提言の意図を参加者と共有し、提言を実現するためにこれからとるべき行動について考える。

まず、今西が新提言の構成にしたがって、緑化植物の取り扱いに関する経緯や、緑化植物に関する現状の問題とその背景要因、生物多様性保全のための緑化植物の適切な取り扱いの実現に向けたビジョン（1つの長期ビジョンと2つの短期ビジョン）、学会の役割について解説し、新提言の概要や要点を説明する。次に、吉田が短期ビジョン1「地域性系統の植物による緑化の推進」に必要なアクションについて、江川が短期ビジョン2「外来植物による緑化におけるリスク管理の実施」に必要なアクションについて、具体的な例示を交えながら解説を行う。最後に、新提言の実現に関して参加者と意見交換を行い、推進体制やスケジュール、留意事項等を検討することによって、学会として取り組むための基盤づくりを行う。

## (2) 研究集会（2）

テーマ：地域性種苗の使用実態と今後の活用に向けた取り組み－阿蘇地域の復旧事業に関連して－

日時：2019年9月15日（日）12:00～13:00

場所：8号館2階8209教室

企画：日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会

趣旨：

生態・環境緑化研究部会では、2018年に日本緑化工学会の賛助会員企業などを対象に、市場単価設計の工事における緑化植物の使用状況についてのアンケートを実施した。地域性種苗を普及させるためにはできるだけ種子価格を下げる必要があるものの、実際に使用されている配合や種子量は現場によってまちまちであり、現場によって使用状況は異なっているため、実態を調査したものである。その結果から現状で緑化事業に地域性種苗を使用する余地があるのかどうか、議論してみたい。

2019年からは国立公園周辺に位置する熊本地震の復旧事業対象地における実際の工事内容について、環境省九州地方環境事務所からの情報提供により調査中である。自然公園等、生態系に配慮すべき立地対象で行われる事業の方向性について分析～提案ができるかどうか、目的や経過について紹介する。そして話題提供2.では、実際に阿蘇の崩壊地において植生の変化・回復状況などを継続的に調査している体験を踏まえ、今後の植生や環境の修復についてご報告いただく。

話題提供：

1. 吉原敬嗣（紅大貿易株式会社）、田中 淳（国土防災技術株式会社）  
「市場単価工事使用種子配合アンケートの結果報告」
2. 森岡千恵（日本工営株式会社）  
「熊本地震により引き起こされた阿蘇の大規模崩壊地とその植生の回復状況」
3. 小野幸菜（東興ジオテック株式会社 日本樹木種子研究所）  
「阿蘇地域の自然公園内における緑化植物使用実態調査について」

## (3) 研究集会（3）

テーマ：海岸林の再生に向けて ―再造林・天然更新・植生遷移の現状と課題―

日時：2019年9月15日（日）13:00～15:00

場所：8号館2階8205教室

企画：海岸林・沿岸域緑化研究部会

話題提供：

1. 吉崎真司（東京都市大学）  
マツ枯れ後のクロマツの天然更新の実態と植生管理
2. 中島有美子（国際航業株式会社）  
海岸林造成地の環境条件とマツ枯れ後の植生遷移の関係
3. 田中賢治（国土防災技術株式会社）  
塩類集積被害を受けた海岸林の再生
4. 岡 浩平（広島工業大学）  
津波により倒壊したクロマツ林の天然更新の実態
5. 萩野裕章（森林総合研究所）  
飛砂害の発生原因とその対策
6. 眞見和樹（グリーン産業株式会社）  
飛砂軽減のための海浜植物による砂浜緑化

趣旨：

日本の海岸林は、マツ枯れや津波による甚大な被害を受け、今まさに各地で再整備が進められています。海岸林の再整備は、クロマツの植栽を主体とした従来型のものに加えて、地域の状況に応じた多様な取り組みが進められています。例えば、天然更新したクロマツや自然侵入した広葉樹を活かした事例もあり、これらは生物多様性保全やコストを抑えた手法になることが期待されます。また、海岸林の再整備にあたっては、土壌や微地形の改善が必要な地域もあり、東北沿岸では塩害や過湿の対策、日本海沿岸では前砂丘の修復が進められています。マツ枯れや管理放棄など海岸林が抱える苦難を乗り越えるためには、このような各地の事例を持ち寄り、多様な海岸林のあり方を模索することが大切と考えました。そこで、今回の研究集会では、マツ枯れや津波、飛砂による被害を受けたクロマツ林のその後の動態や植生管理の事例を共有し、今後の海岸林についてみなさんと議論したいと思います。

#### (4) 研究集会（4）

テーマ：自然侵入促進工の成功例と失敗例を考える ～現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会（第9回）～

日時：2019年9月15日（日）13:00～15:00

場所：8号館2階8209教室

企画：日本緑化工学会 斜面緑化研究部会

話題提供：

1. はじめに  
橘 隆一（東京農業大学 地域環境科学部）

2. 外来緑化植物の消長（仮）  
内田泰三（九州産業大学 建築都市工学部）
3. 自然侵入促進工の遷移傾向と他工法との違い（仮）  
中村 剛（日本植生株式会社）
4. 自然侵入促進工の施工実績と植生遷移の傾向（仮）  
石田和宏（日新産業株式会社）
5. 緑化法面に侵入したクズの根絶手法について（仮）  
西野惇志（第一復建株式会社），早坂大亮（近畿大学 農学部）

#### 総合討論

司会：橘 隆一（東京農業大学 地域環境科学部）

趣旨：

当部会で注目すべきテーマには、シカによる植生の食害問題、自然侵入工による植生管理と植生基盤の品質に関する問題、表層崩壊防止と生物多様性保全の両立などが挙げられます。昨年度の大会ではシカの食害問題に関する研究集会を開催しました。

今回は、現場事例に学ぶ斜面緑化勉強会（第9回）として、“自然侵入促進工”をテーマにしました。自然侵入促進工には、植生基盤自体の耐浸食性や侵入植物の定着促進を含めた植生遷移の管理誘導、外来種子混入の可能性など技術的な課題があります。しかし、植生導入をしない分、施工への準備期間がほとんど不要であることなどから安価で安易な工法との誤った認識が広がり、施工の失敗事例が増えている懸念があります。そこで、自然侵入促進工の成功事例・失敗事例や、自然侵入促進工による侵入植生、緑化後の二次遷移について話題を提供していただき、皆さんと議論していきます。

#### (5) 研究集会（5）

テーマ：現在の自然的および社会的条件の下で河原に対するステークホルダーの意思は実現

テーマ：できるのか

日時：2019年9月15日（日）13:00～15:00

場所：8号館2階8210教室

話題提供：

1. 倉本 宣（明治大学）  
企画の趣旨およびまとめ趣旨
2. 五味高志・大平 充（東京農工大学），知花武佳（東京大学），金子弥生（東京農工大学），  
岡田久子（明治大学），伊東静一（明治大学）  
5つの想定されるステークホルダーの意思と実現可能性

趣旨：

これまでの2回の大会では、多摩川の自然的な条件に重点をおいて、かつての礫河原を再生することがもはや困難であることを明らかにしてきた。その結果として、礫河原固有の生きものや樹林地を生息地とする動物にとってのハビタットの配置などを考えた。

今回は3回のシリーズの最終回として、2回にわたる福生市での集会をもとに、河原にか

かわるステークホルダーとその意志を想定して、その実現可能性を検討する。

会場の参加者の意見をうかがう時間を十分にとって考え方を整理し、多摩川が流れる福生市周辺のステークホルダーに実際に働きかける準備としたい。

## 9. 資材・工法展示

### (1) 資材・工法展示（1）

団体名：大建工業株式会社

日時：9月14日（土）10:00～9月15日（日）15:00

場所：8号館1階 エントランスホール

### (2) 資材・工法展示（2）

団体名：国土環境緑化協会連合会・九州支部

日時：9月14日（土）10:00～9月15日（日）15:00

場所：8号館2階 多目的スペース

## 10. 昼食

9月14日（土）は学食が利用できますが、その他の日は学食が利用できませんので、各自で昼食をご準備ください。

## 11. 宿泊

会場周辺にはホテルはありませんので、博多・天神周辺にて確保することをお勧めします。

## 12. 託児施設に関する事

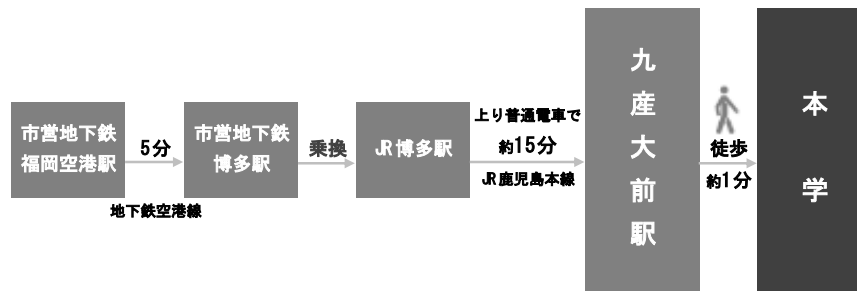
託児に関する情報（博多駅周辺）が必要な方は、大会運営委員会（ryokkakou50@gmail.com）までお問い合わせください。その際、メールの件名に「託児について」と入れて下さい。

【問い合わせ先】 大会運営委員宛メール：ryokkakou50@gmail.com

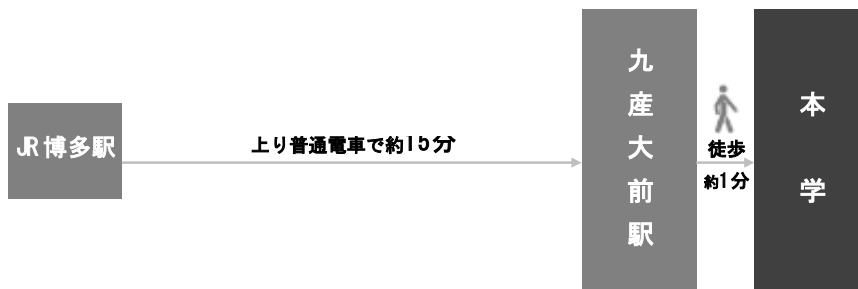


### 1 3. 会場までのアクセス

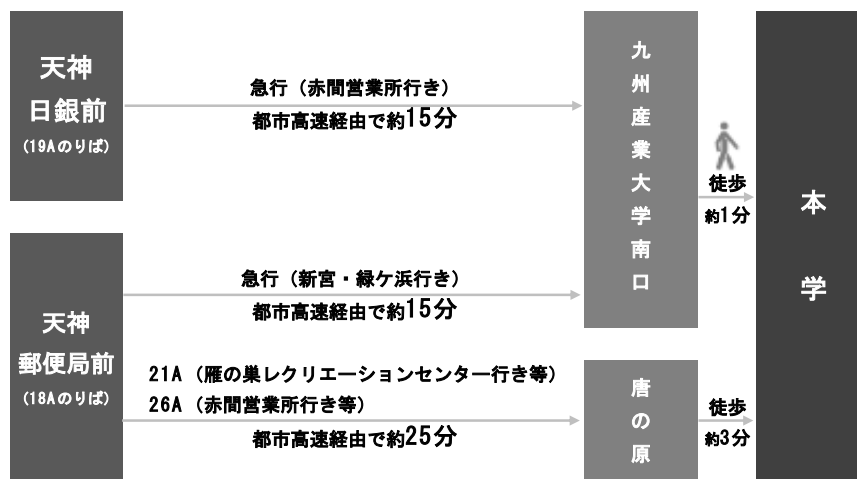
福岡空港：市営地下鉄福岡空港駅（5分） ➡市営地下鉄博多駅乗換 ➡JR 鹿児島本線博多駅（15分）（普通電車をご利用ください） ➡九産大前駅下車，徒歩 1分



博多周辺：JR 鹿児島本線博多駅（15分）（普通電車をご利用ください） ➡九産大前駅下車 徒歩 1分



天神周辺：西鉄バス天神日銀前 19A のりば，または天神郵便局前 18A のりば（15～25分）（都市高速経由をご利用ください） ➡九州産業大学南口または唐の原下車，徒歩 1～3分



#### 1 4. 大会運営委員会

委員長：内田泰三（九産大） 副委員長：福井 亘（京都府大）

事務局：古野正章（九産大）

運営委員：佐々木一成（西短大），田中賢治（国土防災技術），田中 淳（国土防災技術），寺本行芳（鹿児島大），中村華子（緑化工ラボ），小阪裕師（九州日植）

#### 【事務局連絡先】

〒813-8503 福岡市東区松香台 2-3-1

九州産業大学建築都市工学部 都市デザイン工学科 内田研究室内

第 50 回日本緑化工学会大会事務局

TEL：092-673-5674（内田） FAX：092-673-5093

E-Mail：ryokkakou50@gmail.com